

建設標

年を重ねゆっくり山麓歩き

高校時代の友人の案内で、諏訪地方の農業用水である四つの堰を3人で巡りました。友人は江戸時代に多数の堰を開削した坂本養川の研究をしていて、2年前に堰のマップを作成し、今は小学校の授業や市民講座等で教えています。

現地では、マップと詳細図を見ながら、取り入れ口や林間の

沈殿池、分水工などを見学し、まるで宝物探しの冒険のようでした。一方で、歴史的な農業用水路は、土地改良区や水利組合が維持管理していますが、距離が長く、草刈りや泥上げ、補修等が大変で、組合員の高齢化などで将来が不安だという説明も受けました。

紅葉の八ヶ岳の大パノラマや

南アルプスの高峰を眺めながら公園のベンチで昼飯を食べ、まるで小学校の時の遠足のようでした。夕方には、冷えた身体を日帰り温泉で温めてから慰労会。若い頃は、高い山嶺を目指して幾つも登ったけれど、年を重ねた今は、今回みたいゆっくり山麓歩きもいいねと話し合います。来年また、別の堰歩きでの再会を約束して別れました。

長野市 赤羽 昭彦

(会社員・68)